

SolidWorks 2017 インストール手順書

第 1.1 版

令和 4 年 8 月 29 日

KUDOS 学生センター

教育系運用管理 G

改訂履歴

版数	更新日付	内容	作成者	確認者
第 1.0 版	2018/05/15	初版		
第 1.1 版	2022/08/29	シリアル番号の変更実施 Windows 7 の削除実施。		

目次

1. 本書について	3
1.1. 本書の目的	3
1.2. システム要件	3
1.3. 本書の作成環境	5
1.4. 本書実施のアカウント権限について	5
2. SolidWorks2016 SP2.0 の削除	6
2.1. 概要	6
2.2. 手順	6
3. SolidWorks2017 SP2.0 の導入	10
3.1. 概要	10
3.2. 手順	10
4. その他	27
4.1. ライセンスサーバの情報の入力時にエラーが表示される場合	27
4.2. HOSTS ファイルへのライセンスサーバ追加方法 (Windows 10 の場合)	28

1. 本書について

1.1. 本書の目的

本書では、SolidWorks2017 のインストールを目的に作成しております。

1.2. システム要件

(1) ソフトウェア要件

【OS】

Microsoft® Windows 8.1 64-bit ((Professional、Enterprise のみ)

Microsoft® Windows 10 64-bit (Professional、Education、Enterprise のみ)

※Microsoft® Windows 8 はサポート対象外となります。

【Microsoft Office】

2016

2019

注) 部品表・設計テーブルを使用する場合、必ず必要となります

(2) ハードウェア要件

【CPU】

Intel、もしくは AMD のプロセッサ (CPU は、SSE2(Streaming SIMD Extensions 2)をサポートしていることが必要です。

注) Intel® Pentium® 3、Athlon™、Athlon XP は、サポートされていません。

【その他】

8GB 以上の RAM

15GB 以上のハードディスク空き容量

注) SolidWorks のインストール容量は、約 12GB になります。

(PhotoView 360、SolidWorks Toolbox、eDrawings、Simulation を含む)

上記の空き容量を十分確保してからインストールして下さい。

マウス等のポインティングデバイス

DVD ドライブ

下記で確認できるグラフィックカードとドライバの組み合わせ

■ グラフィックドライバの検索 & 適用方法 ⇒ www.solidworks.com/graphicscards

1. 「Computer Vendor」 でご使用マシンのシステムベンダー(IBM、DELL 等)を選択
2. 「Computer Model」 でご使用のマシンの機種を選択
3. 「Graphics Card Model」 でご使用マシンのグラフィックカード機種を選択
4. 「SolidWorks Version」 で SolidWorks 2017 を選択
5. 「Operating System」 でご使用の OS の種類を選択
6. [Show Results] をクリック
7. 表示されるドライバー一覧から適合するものをクリックしてダウンロード、インストール

1.3. 本書の作成環境

本書は次の環境で作成しております。

よって、画面構成など、実際のご利用環境と本手順が異なる事も御座います。

大変恐れ入りますが、その際は、ご利用環境にあわせて、読み替えをお願い申し上げます。

- ・ 本体 富士通 LIFEBOOK E756/M
- ・ SolidWorks 2017 SP 2.0

【ソフトウェア】

OS	Windows10 Enterprise (64Bit)
Office	Professional Plus 2016
Internet Explorer	version 11

【ハードウェア】

CPU	Intel Corei5 6300U 2.4GHz
MEMORY	8GB
HDD	128GB
マウス	富士通 CP664646-01
DVD ドライブ	HL-DT-ST DVDRAM GUDoN
グラフィック	Intel(R) HD Graphics 520

※グラフィックについては、本書の作成環境では、要件を満たしておりません。ご注意ください。

1.4. 本書実施のアカウント権限について

本書記載の手順は特記事項が無い限り、「Administrator」または「Administrator 権限」を持つユーザー アカウントにて実施して下さい。

2. SolidWorks2016 SP2.0 の削除

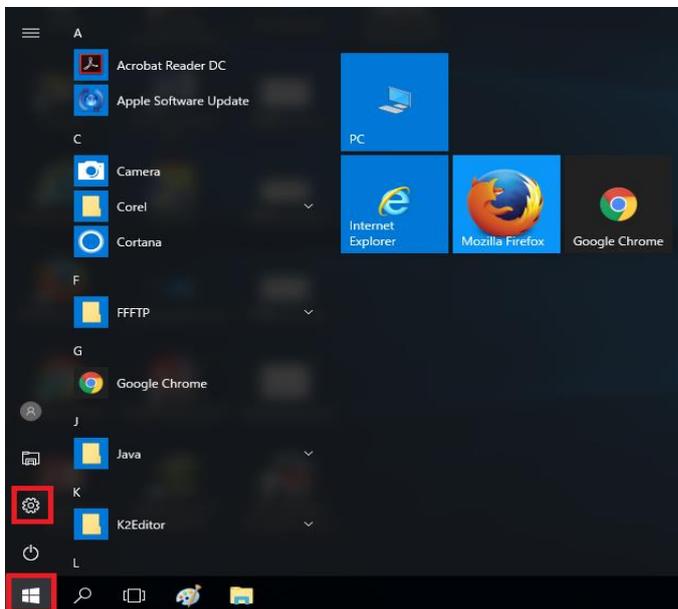
2.1. 概要

本手順では、SolidWorks2016 SP2.0 を例に削除手順を記載致します。

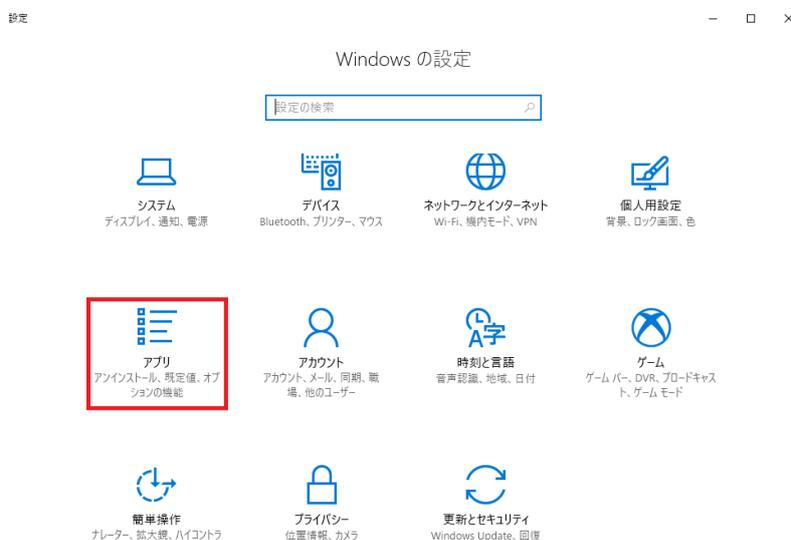
なお、新規導入の場合は『3.SolidWorks2017 SP2.0 の導入』の手順から実施してください。

2.2. 手順

- 1) Administrator または、Administrator 権限のユーザでログイン後、『スタート』→『設定』の順で開きます。



- 2) 『アプリ』を選択します。



- 3) 現在インストールされているプログラム一覧より、既存 SolidWorks を選択後、『アンインストール』をクリックしてください。

※本書では、『SolidWorks 2016 SP2.0』が対象となります。



- 4) 『このアプリとその関連情報がアンインストールされます。』とメッセージが表示されるため、アンインストールをクリックします。

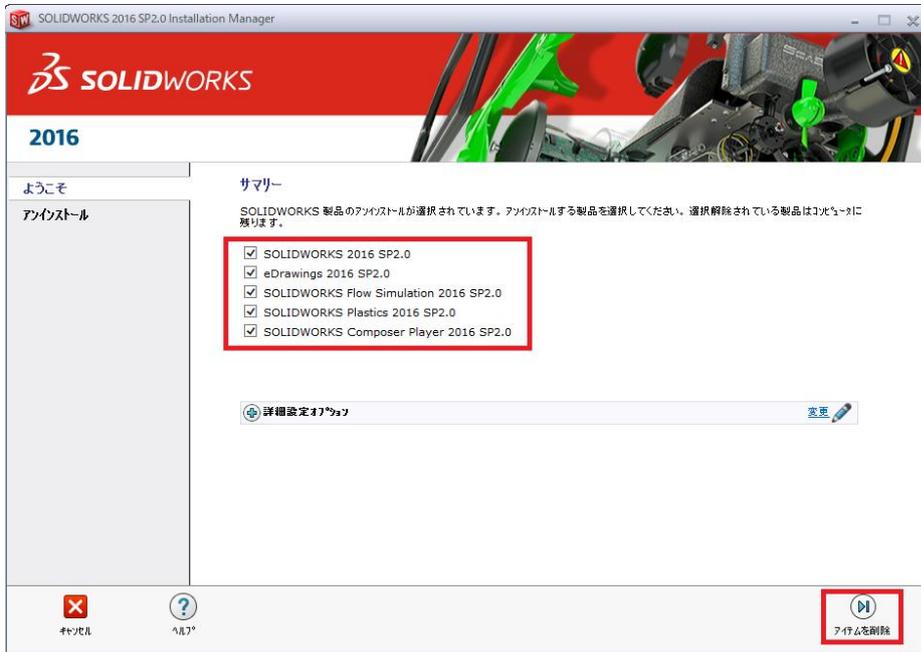


5) 削除する製品を選択後、『アイテムを削除』を選択してください。

参考として、本書作成環境での削除対象ソフトウェアを記載します。

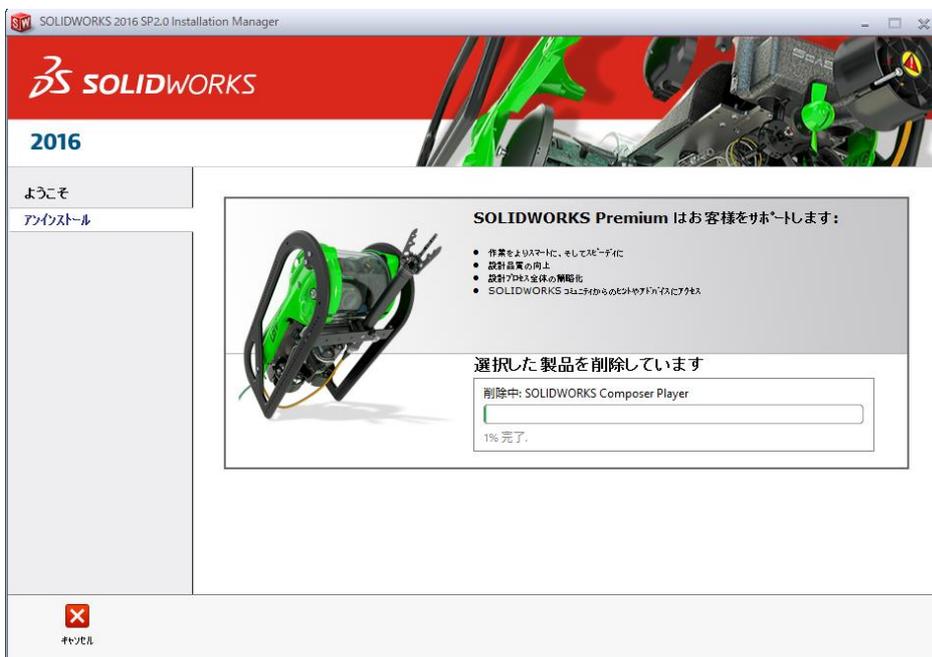
『SolidWorks 2016 SP2.0』『eDrawings 2016 SP2.0』『SolidWorks Flow Simulation 2016 SP2.0』

『SolidWorks Plactics 2016 SP2.0』『SolidWorks Composer Player 2016 SP2.0』



6) 選択した製品の削除が開始されますので、しばらくお待ちください。

削除完了後は自動的にウィンドウが閉じられます。



- 7) 不要フォルダが残っている場合は、手動で削除してください。

参考として、本書作成環境における不要フォルダ(手動削除フォルダ)を記載します。

※C:\ProgramData\SolidWorks\SolidWorks 2016\templates にテンプレートを置いている場合は事前にバックアップを取得してください。

『C:\Solidworks Data』 『C:\Program Files\SolidWorks Corp』

『C:\ProgramData\SolidWorks』

『C:\Users\ユーザ ID\AppData\Roaming\SolidWorks』

『C:\Users\ユーザ ID\AppData\Roaming\SolidWorks2016』

- 8) コンピュータを再起動して下さい。

- 9) 以上で SolidWorks2016 関連製品の削除は完了です。

引き続き、『3.SolidWorks2017 SP2.0 の導入』の手順を実施してください。

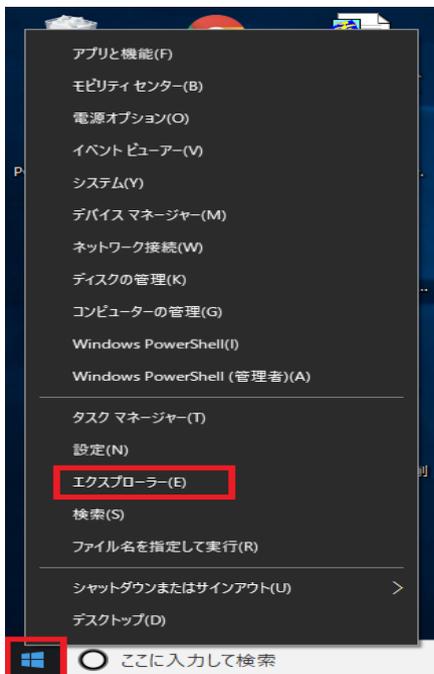
3. SolidWorks2017 SP2.0 の導入

3.1. 概要

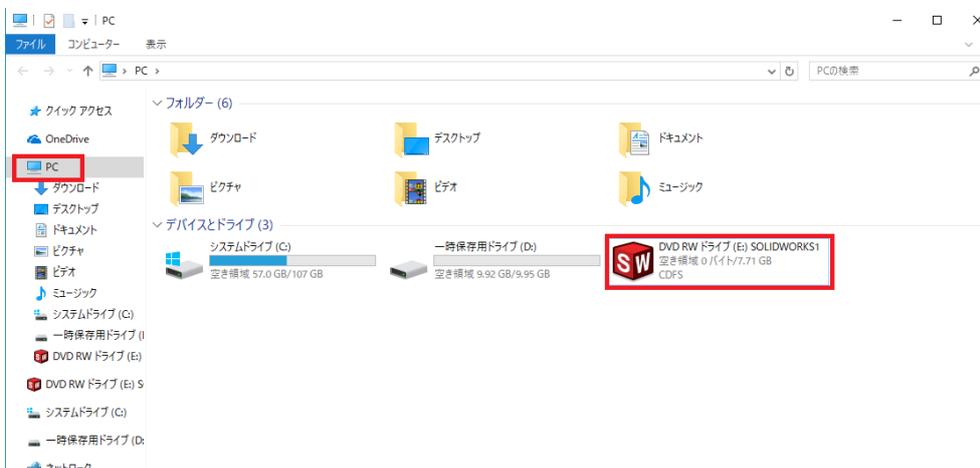
本手順書では、SolidWorks2017 SP2.0 の導入手順を記載します。

3.2. 手順

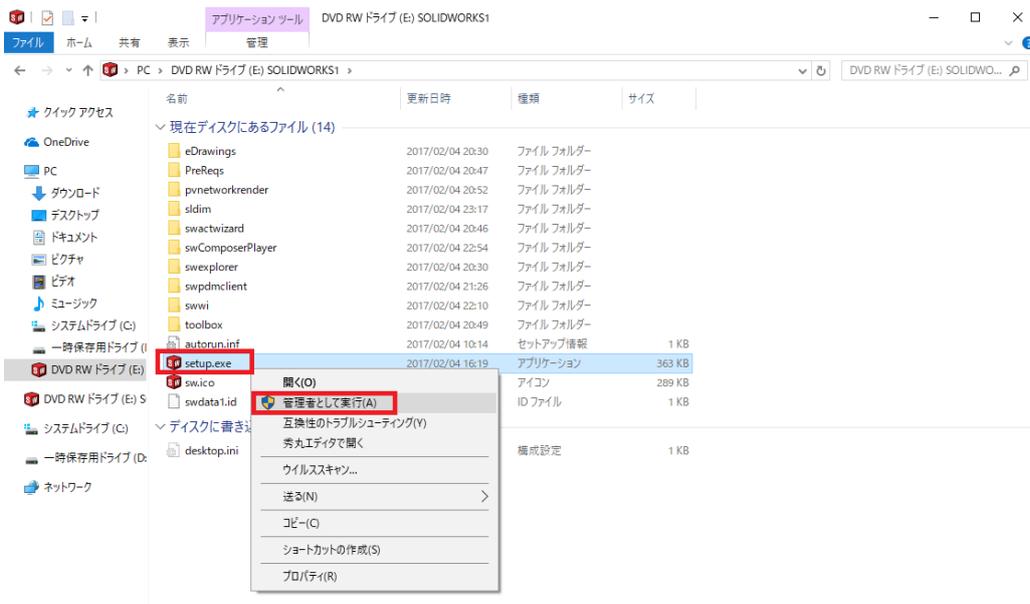
- 1) SolidWorks2017 のインストールメディア Disk1 を、光学ドライブへセットします。
- 2) マウスを『スタート』ボタンに合わせ右クリックします。
『エクスプローラー』をクリックします。



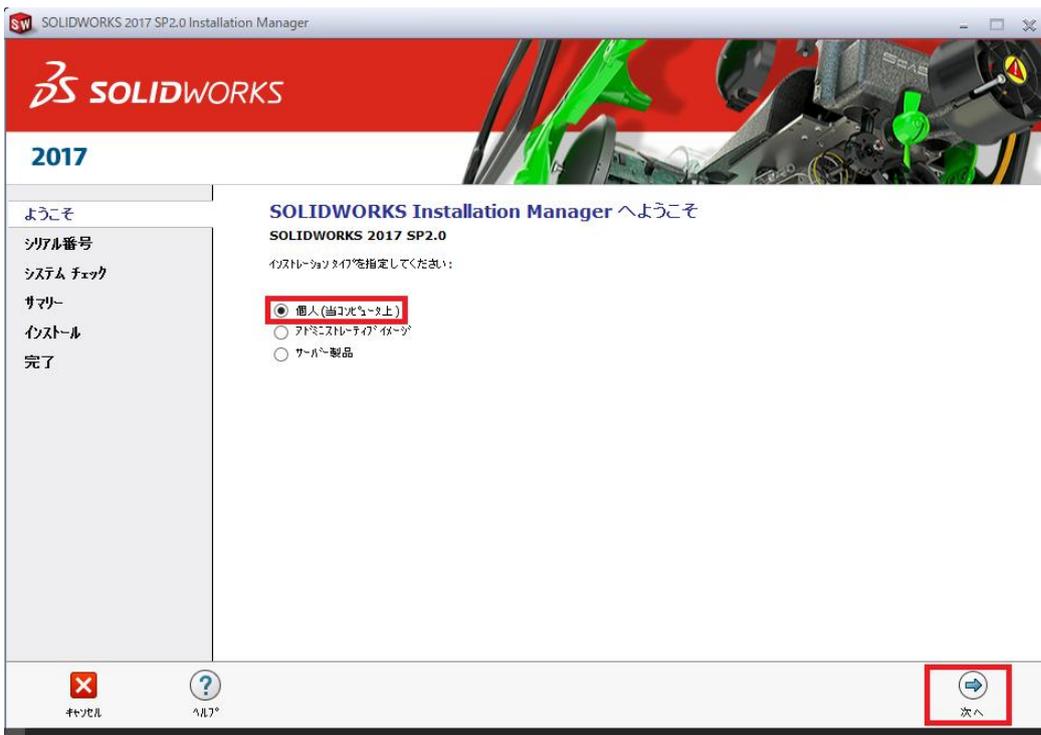
- 3) 『PC』 → 『DVD RW ドライブ(E):SOLIDWORKS1』をダブルクリックします。



- 4) 『setup.exe』を右クリックし、『管理者として実行』を選択します。



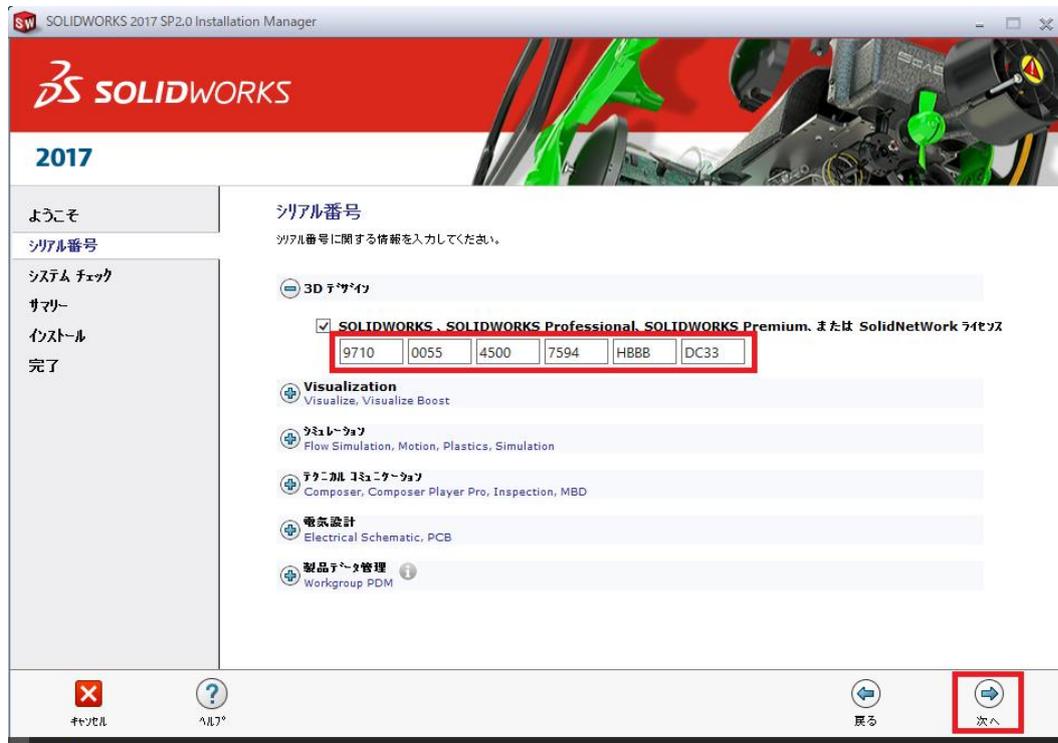
- 5) 『インストーラタイプを指定してください。』と表示されるので『個人(当コンピュータ上)』を選択し、『次へ』をクリックします。



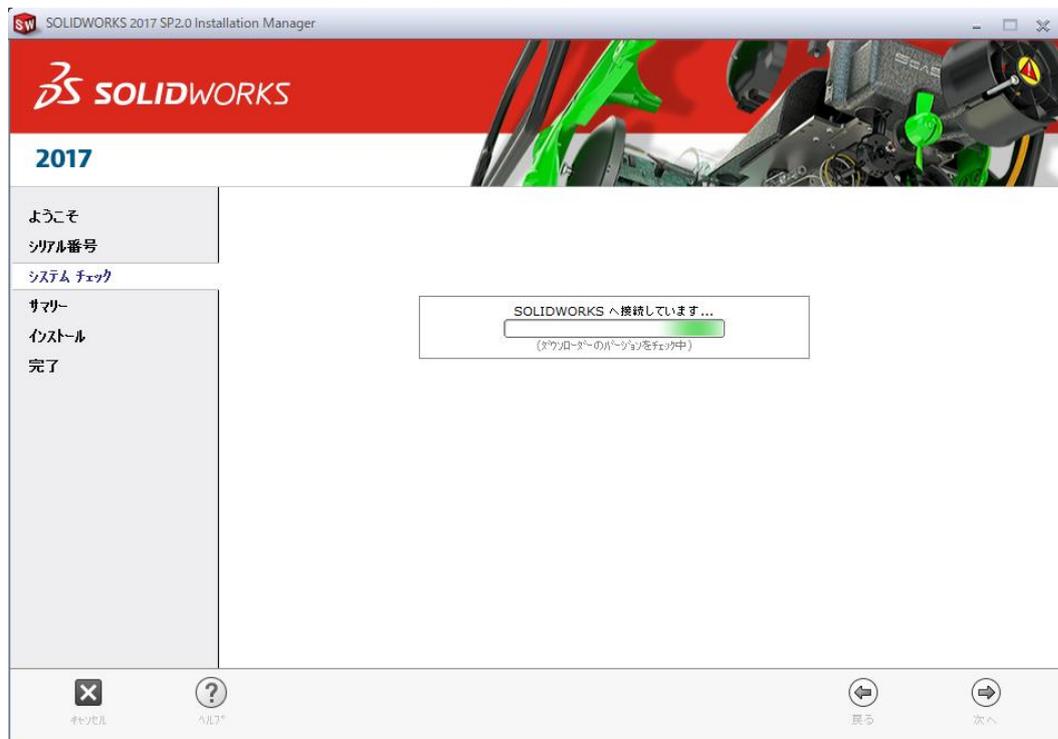
- 6) シリアル番号の入力画面が表示されますので、下記のシリアル番号を入力後『次へ』をクリックします。

シリアル番号 : 9710 0254 3526 5516 C3FB SC34

(キュー・ナナ・イチ・ゼロ・ゼロ・ニ・ゴ・ヨン・サン・ゴ・ニ・ロク・ゴ・ゴ・イチ・ロク・シイ・サン・エフ・ビー・エス・シイ・サン・ヨン)

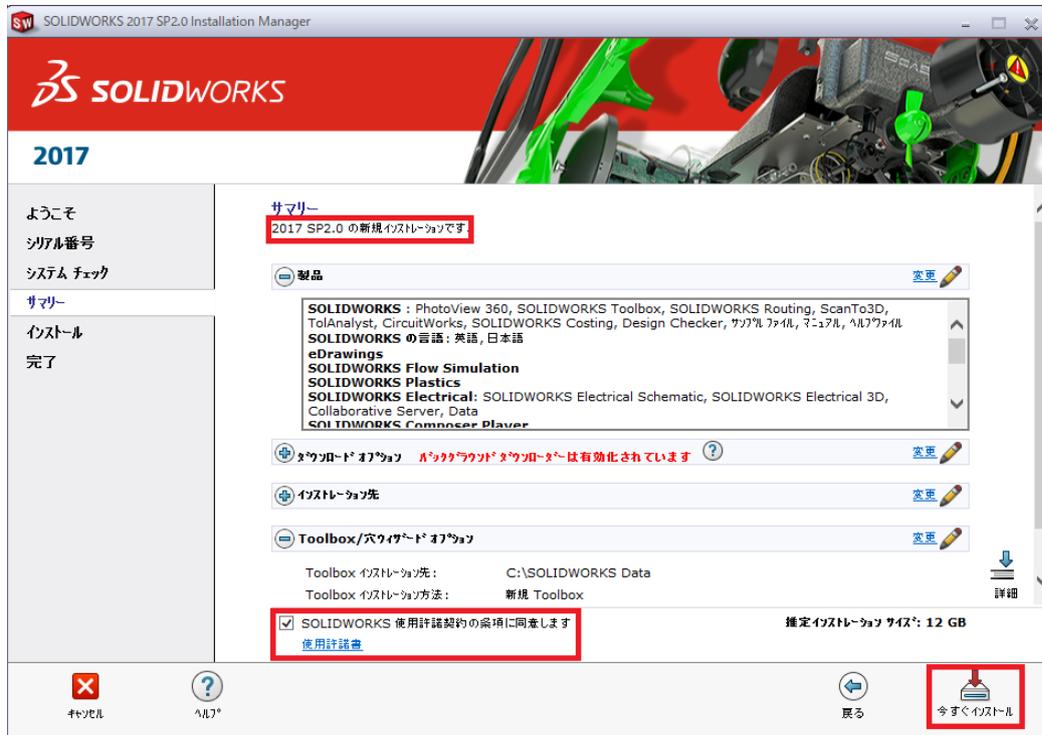


- 7) 『SolidWorks へ接続しています・・・』が表示されますのでしばらくお待ちください。



8) 暫くすると、サマリーが表示されますので

『2017 SP2.0 の新規インストールです。』である事を確認します。
『SOLIDWORKS 使用許諾契約の条項に同意します』にチェックを入れ、
『今すぐインストール』をクリックします。

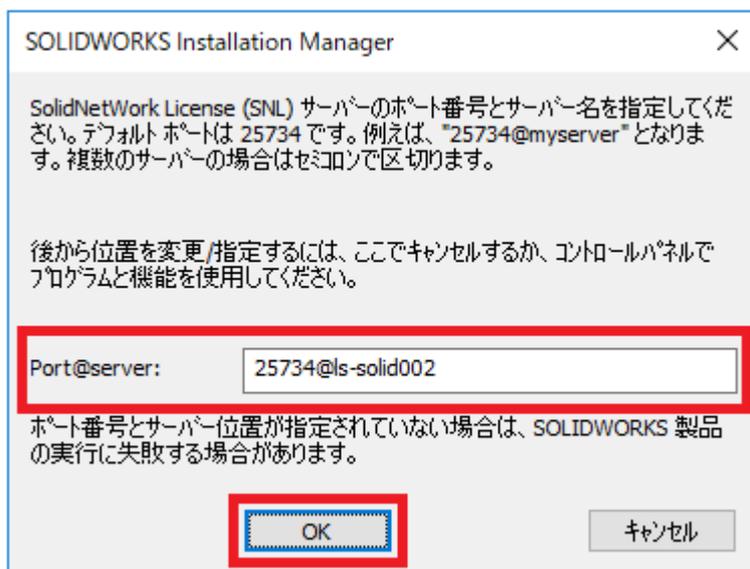


9) ライセンスサーバの情報の入力を求められるので

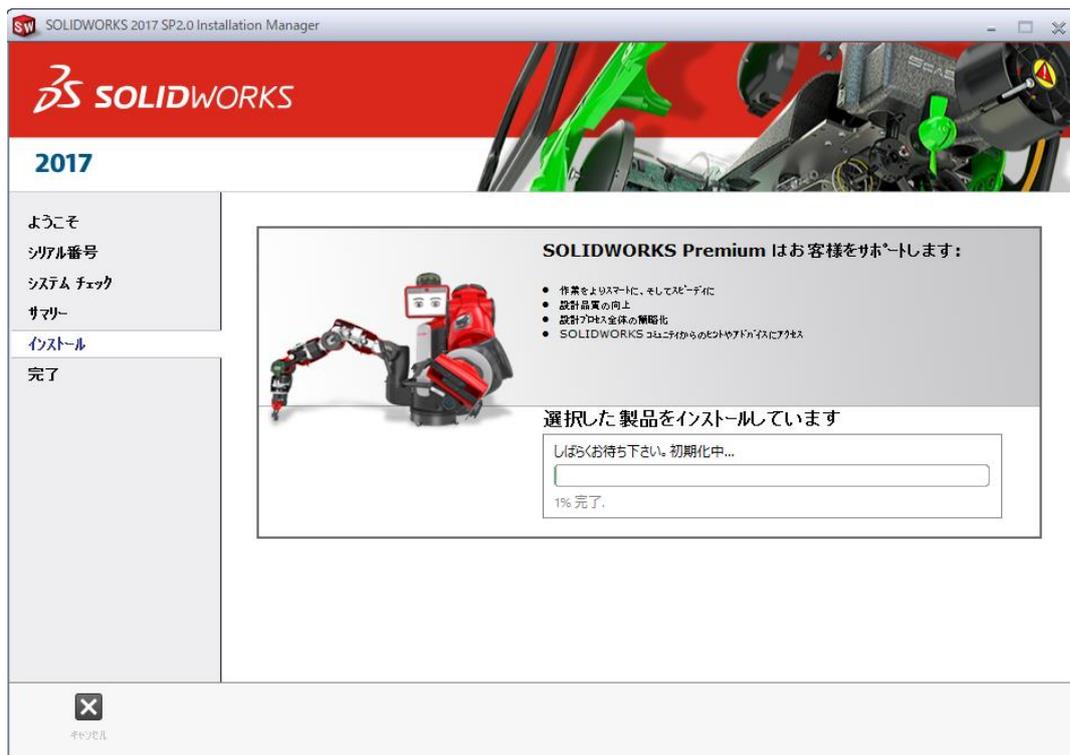
Port@server へ下記のライセンスサーバ情報を入力後、『OK』ボタンをクリックしてください。

ライセンスサーバ情報：25734@ls-solid002

(25734@エル・エス・ハイフン・エス・オー・エル・アイ・ディー・ゼロ・ゼロ・ニ)

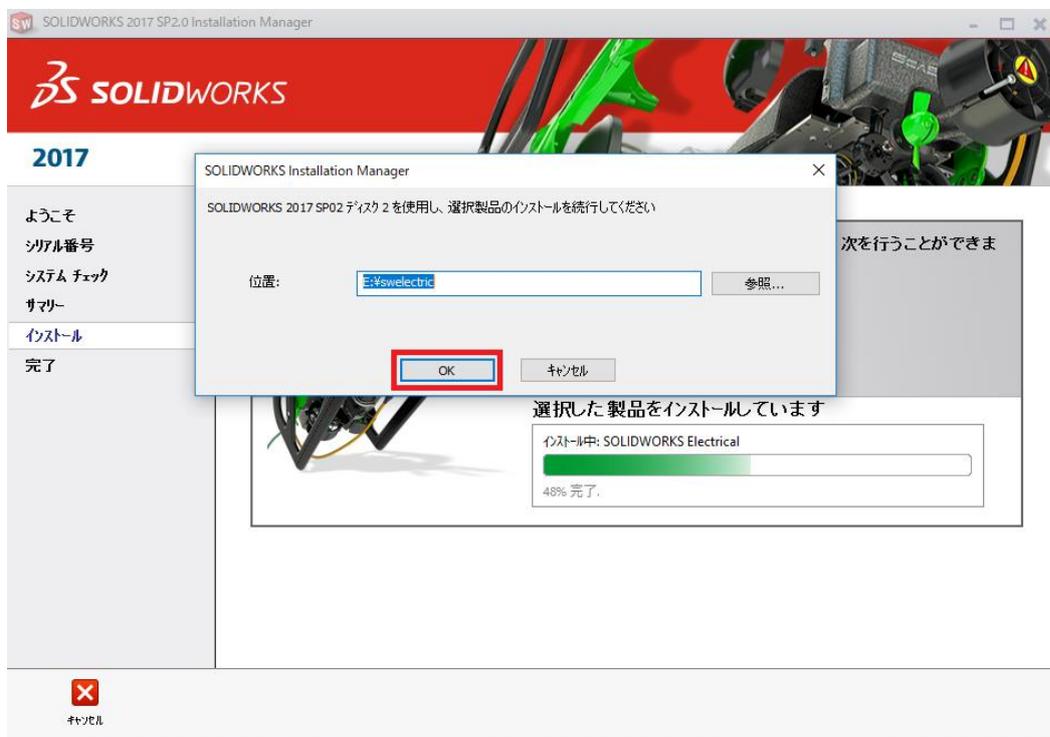


10) インストール処理が開始されます。



11) 暫くすると、Disk2 に入れ替えるメッセージが表示されます。

光学ドライブから Disk1 を取りだし、Disk2 を入れ『OK』をクリックしてください。

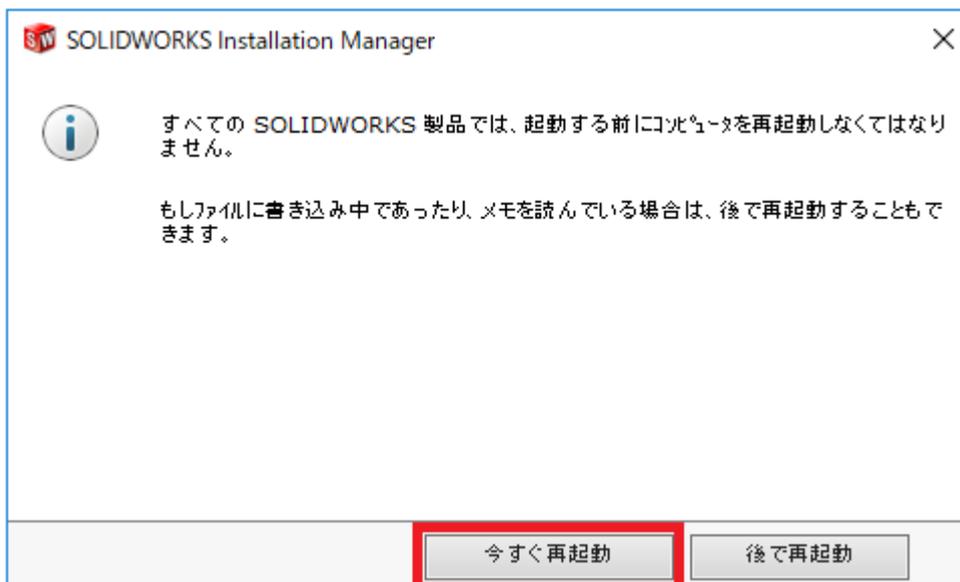


12) 暫くすると、『インストール完了』画面が表示されます。

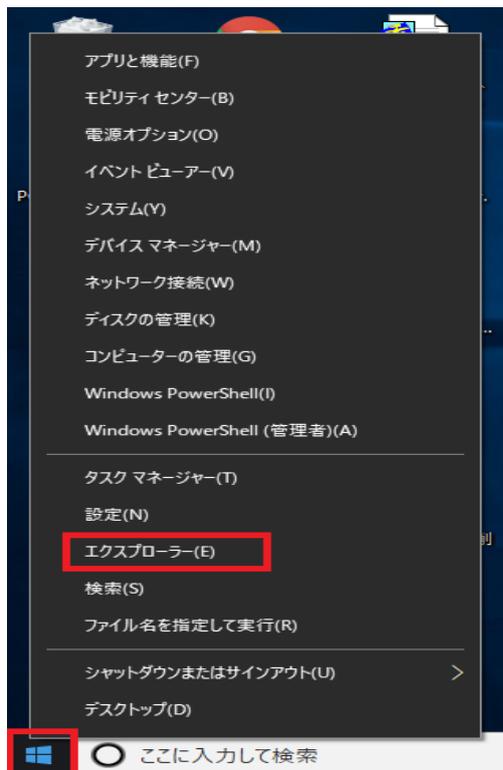
『SolidWorks2017 の新規項目を表示』のチェックを外して、『いいえ、参加しません』を選択後、『完了』をクリックし SolidWorks2017 のインストールメディアをコンピュータより取り出します。



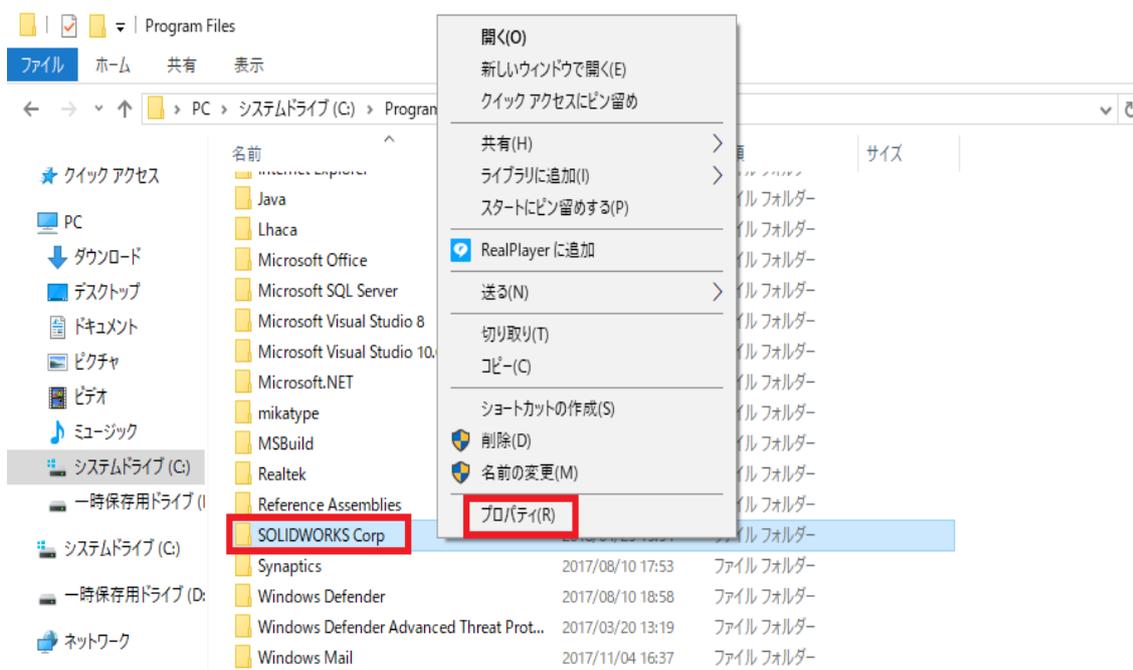
13) インストール完了後、下図のようなメッセージが出る場合は『今すぐ再起動』をクリックして再起動してください。



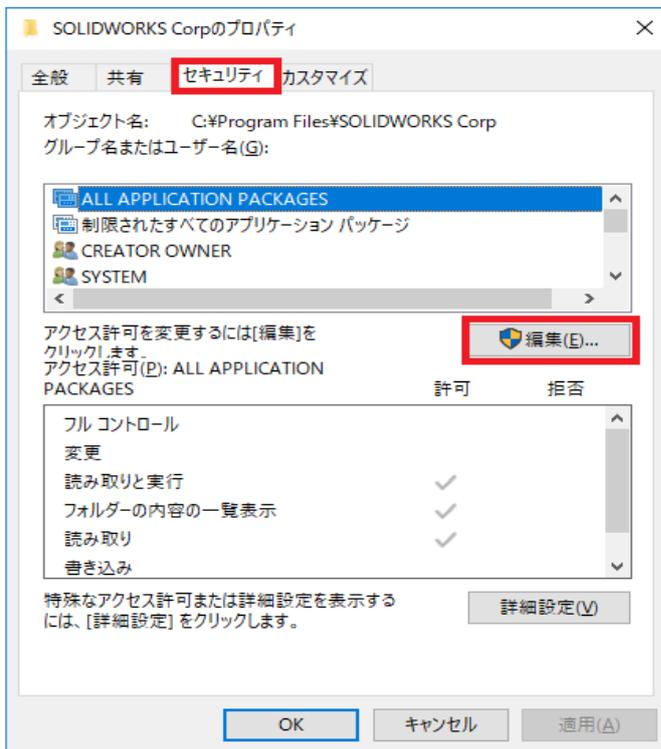
- 14) マウスを『スタート』ボタンに合わせ右クリックをします。
『エクスプローラー』をクリックします。



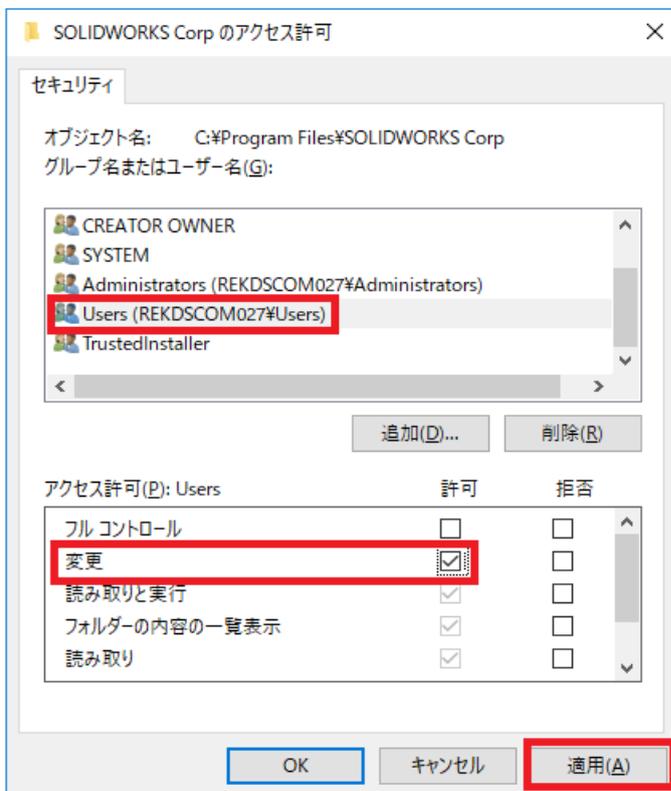
- 15) 『システムドライブ (C:)』 → 『Program Files』の順で階層を開きます。
『SolidWorks Corp』を右クリックし『プロパティ』を開きます。



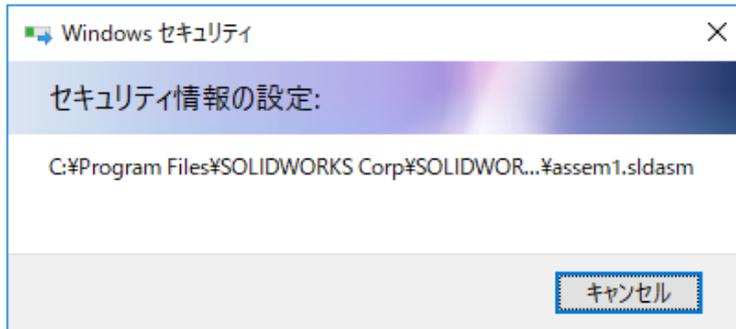
- 16) 『セキュリティ』タブを選択して『編集』をクリックします。



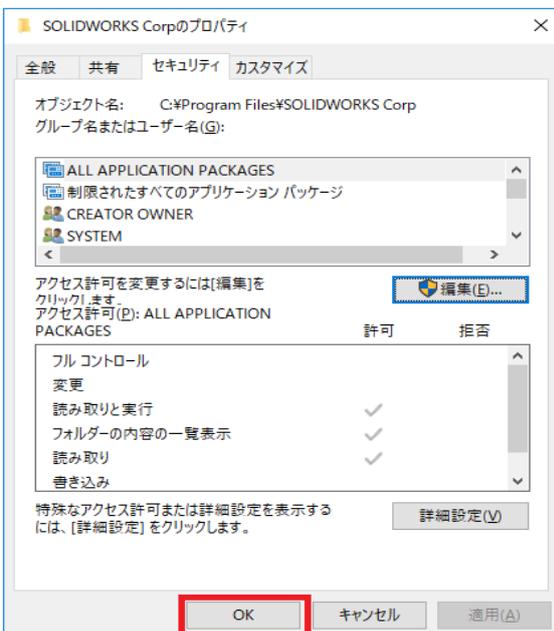
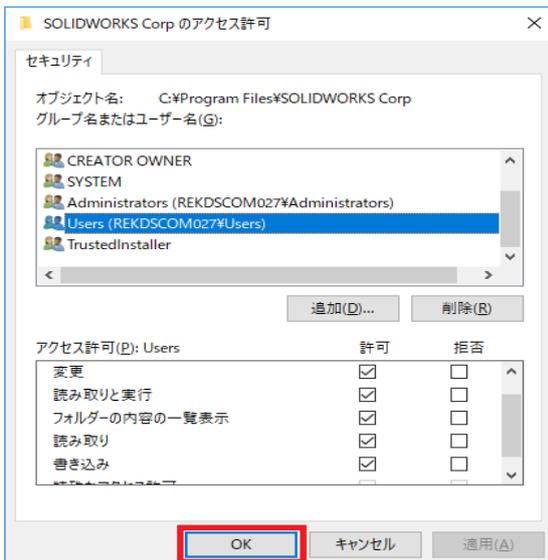
- 17) 『Users (コンピュータ名¥Users)』を選択し、『変更』の『許可』にチェックを入れて、『適用』をクリックします。



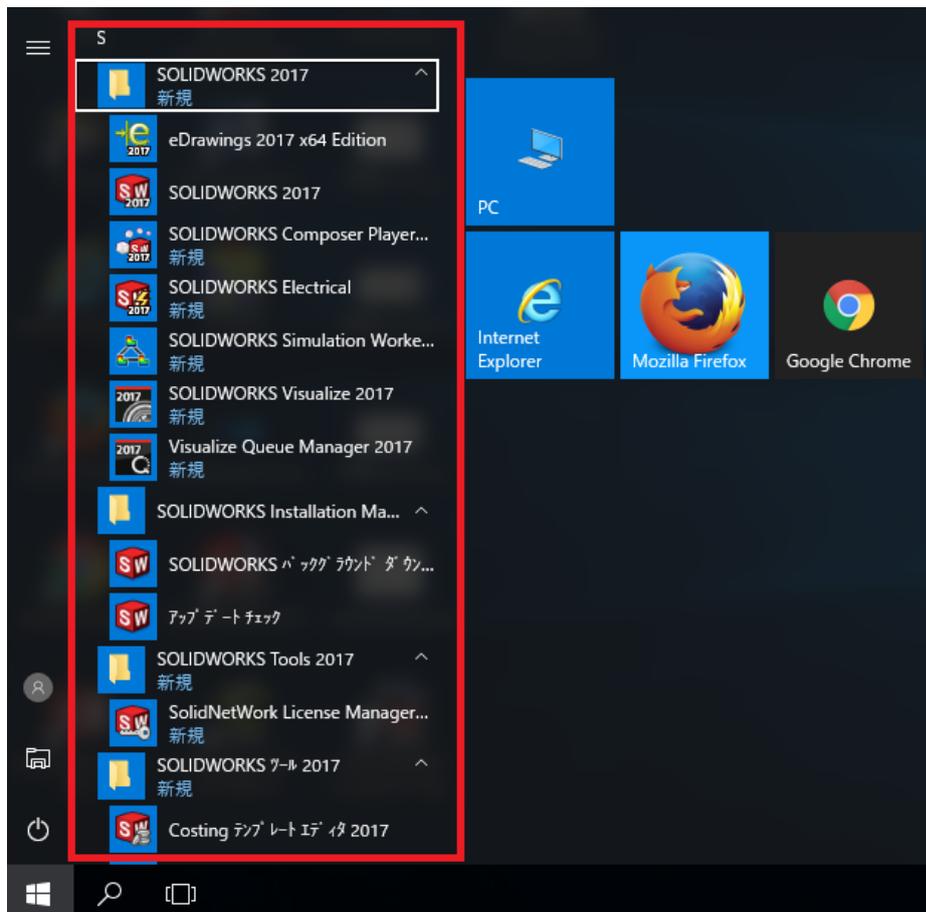
- 18) 『Windows セキュリティ』画面が表示されます。
セキュリティ設定が完了するまで、暫くお待ち下さい。



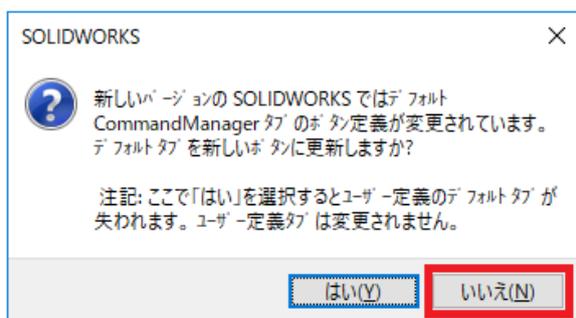
- 19) セキュリティ設定が完了すると、『Windows セキュリティ』画面が閉じます。
『SolidWork Corp のアクセス許可』『SolidWork Corp のプロパティ』にて
『OK』をクリックします。



- 20) スタートメニューに『SolidWorks 2017』グループ及び各アプリケーションアイコンが作成された事を確認します。



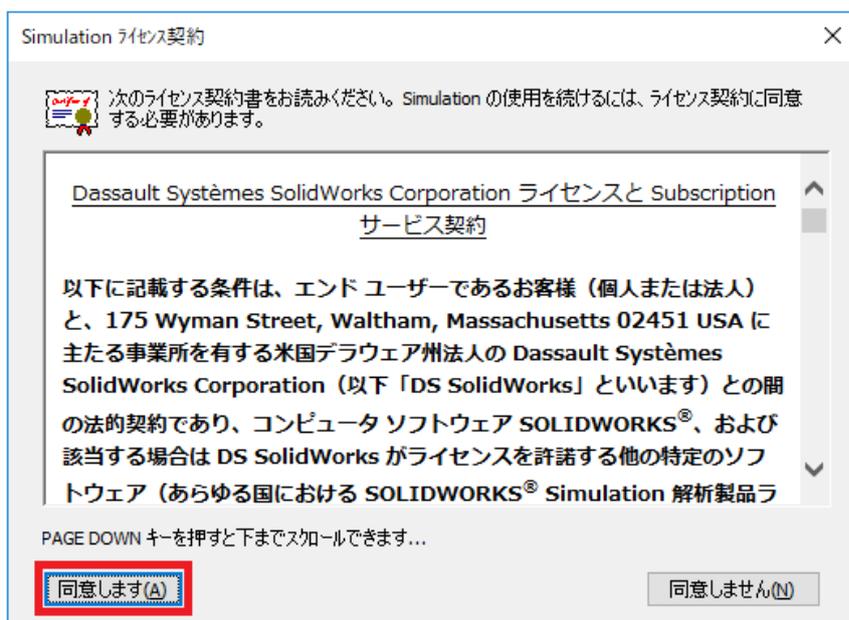
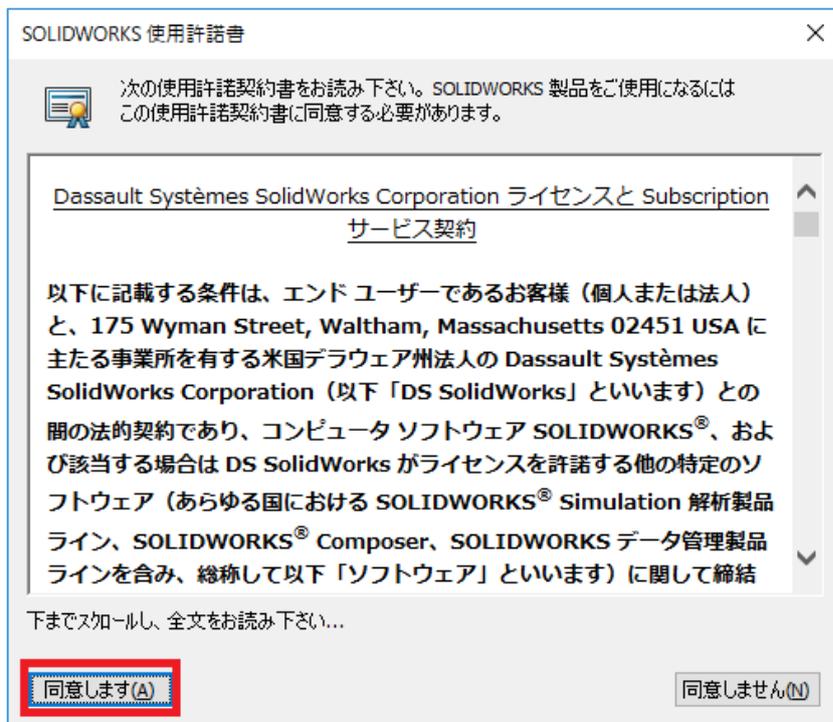
- 21) 『SolidWorks 2017』を起動します。
古いバージョンを使用していた場合は下図のメッセージが表示される事もありますが、『いいえ』をクリックしてください。



22) 各アプリケーションの起動確認を実施して下さい。

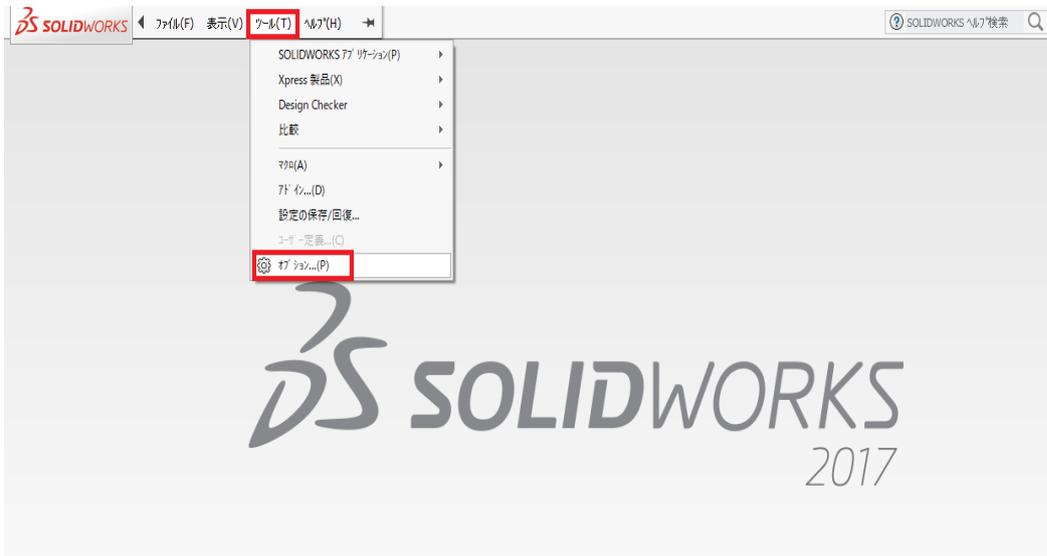
補足説明) 初回起動時のみ『使用許諾書の同意』『ライセンス契約書の同意』等のメッセージが表示されますが『同意します』を選択して使用を続けてください。

2回目以降表示される事はありません。

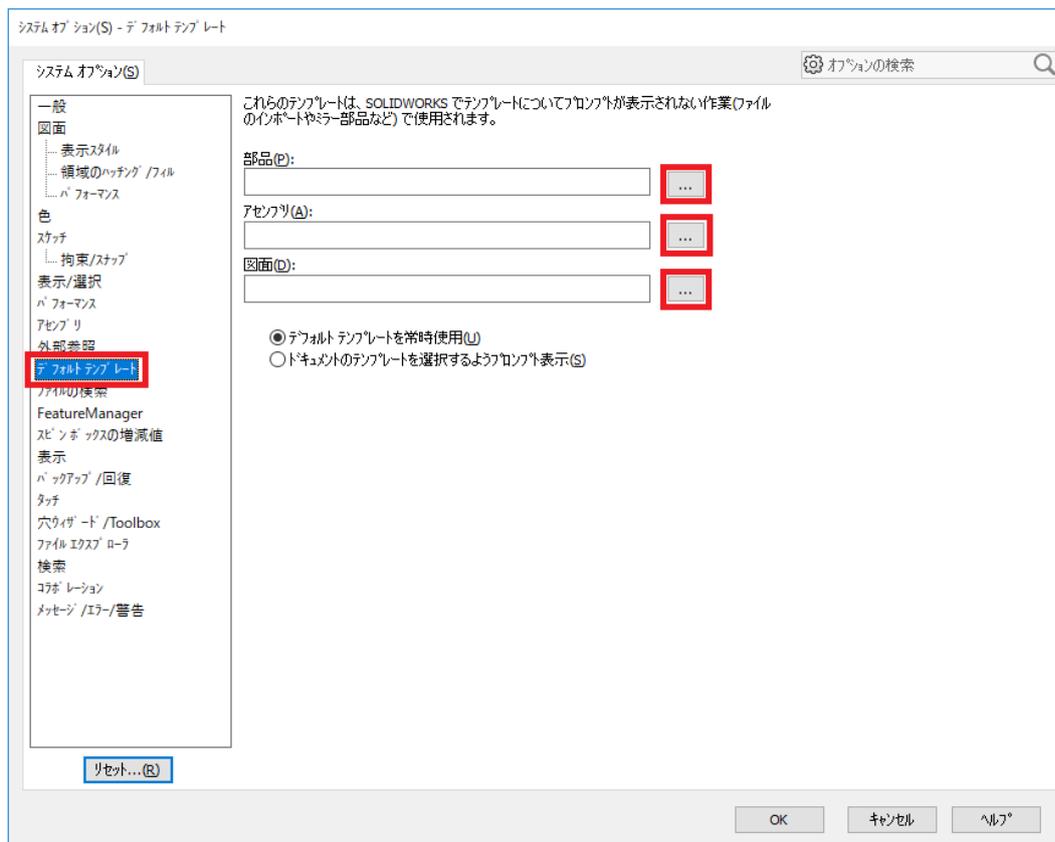


23) 2.2 の(7)でバックアップを取得していた【templates】フォルダ内のデータを【C:\ProgramData\SolidWorks\SolidWorks2016\templates】にコピーします。

24) 『ツール』 → 『オプション』をクリックします。



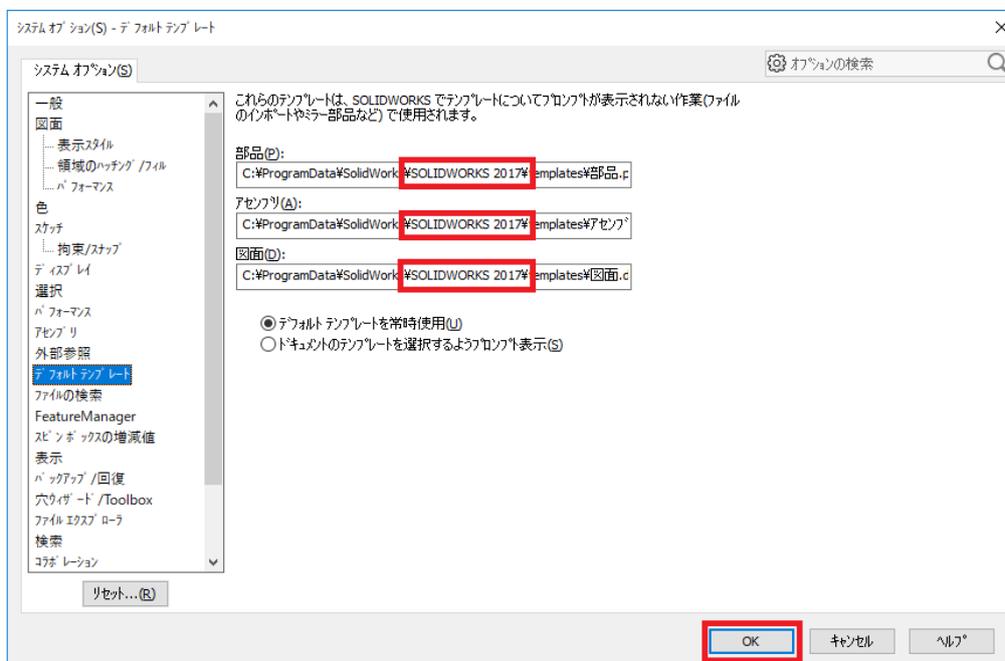
25) 『デフォルトテンプレート』を選択し、各テンプレートの『...』をクリックします。 3



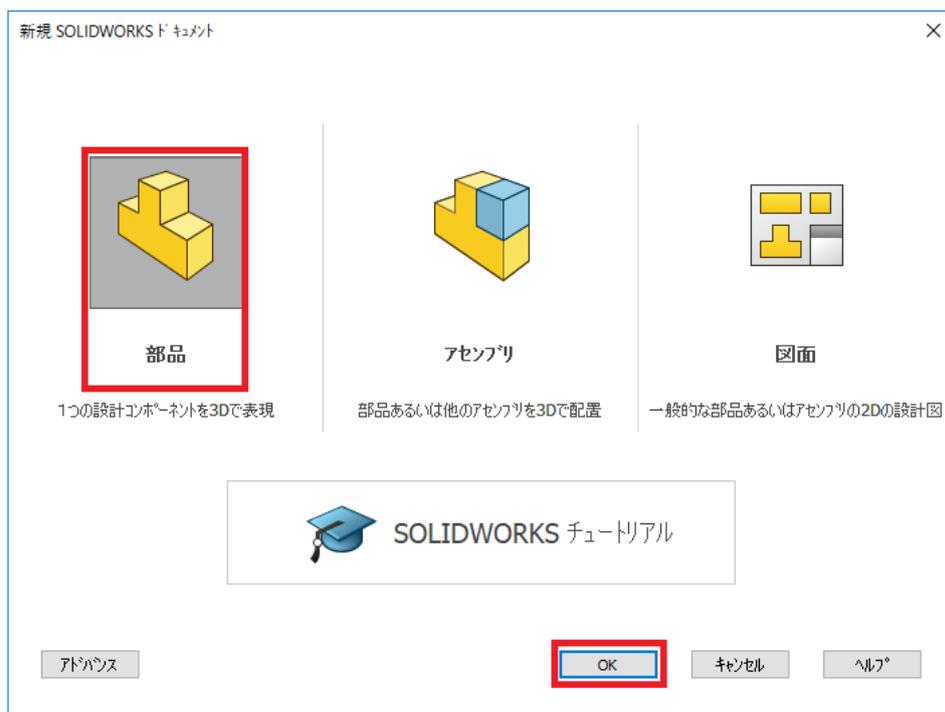
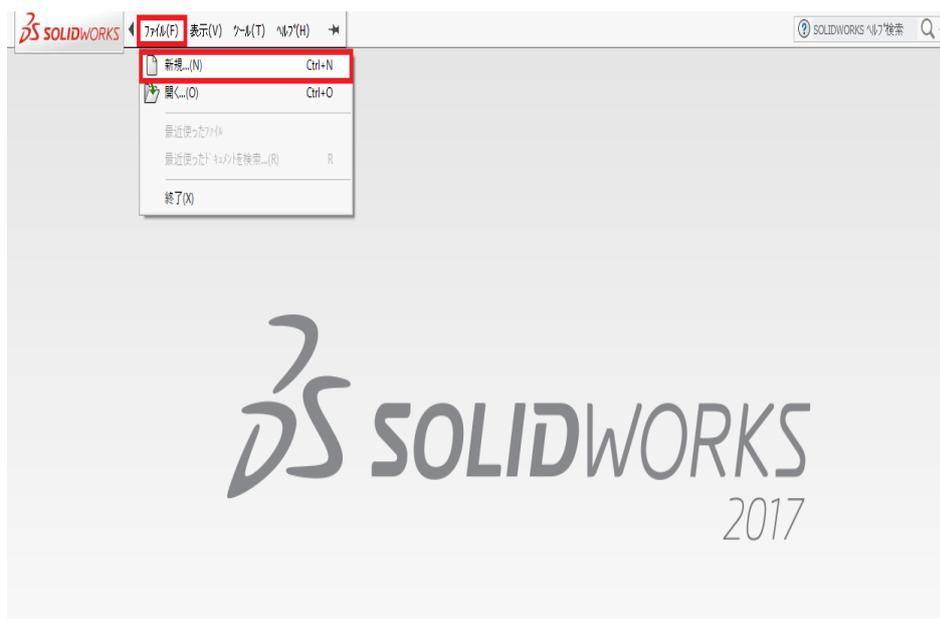
- 26) 各参照先が開きますので、そのまま『OK』をクリックします。
ここでは部品を例にしております。



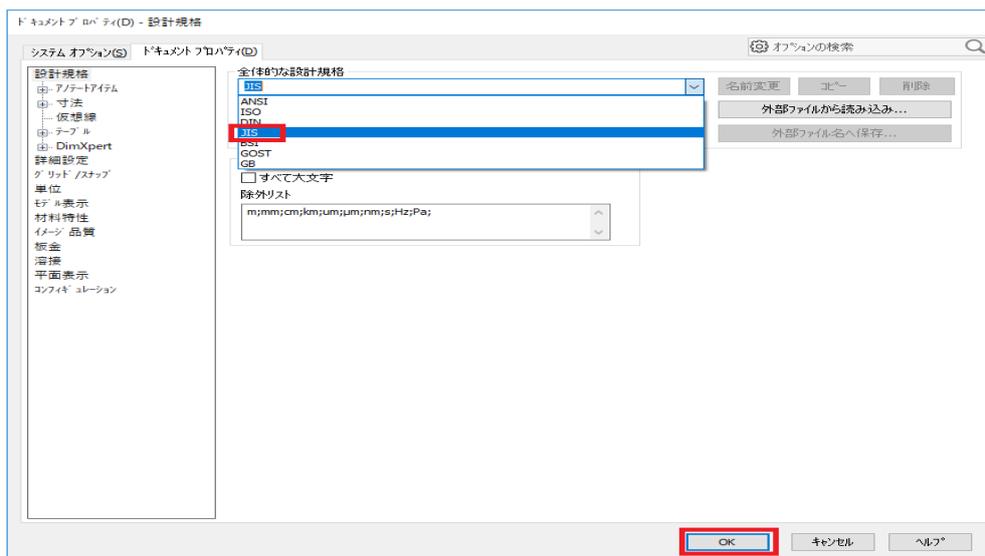
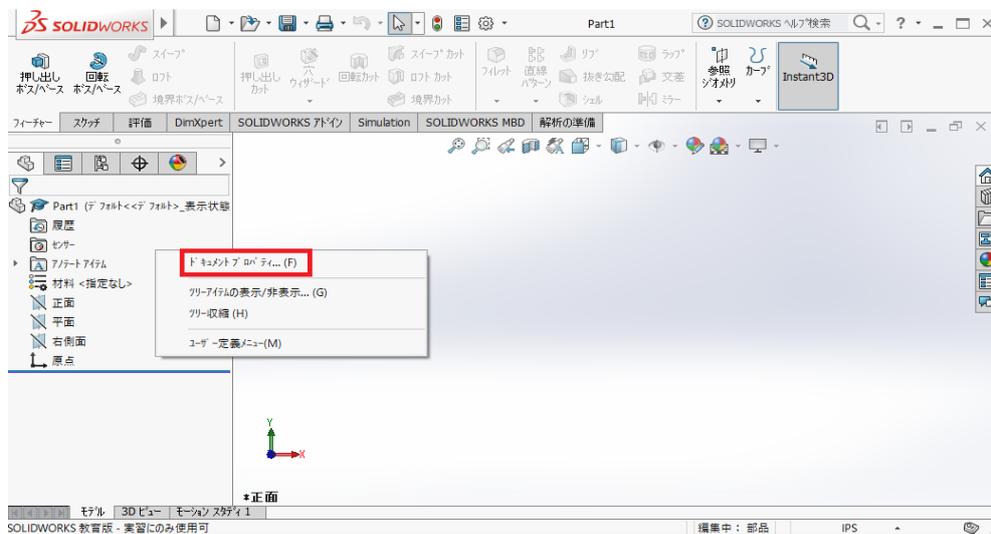
- 27) テンプレート参照先が SolidWorks 2017 に変更されていることを確認し、『OK』をクリックします。



28) 『ファイル』→『新規』でドキュメントを作成します。『部品』を選択し『OK』をクリックします。



- 29) 左ペインで右クリックし、『ドキュメントプロパティ』をクリックします。
『全体的な設計規格』が『JIS』であることを確認し『OK』をクリックします。
『単位』が『MMGS』であることを確認し『OK』をクリックします。



- 30) 『ファイル』→『新規』でドキュメントを作成します。『図面』を選択し『OK』をクリックします。
図面内の×ボタンをクリックします。



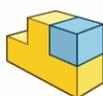
新規 SOLIDWORKS ドキュメント

×



部品

1つの設計コンポーネントを3Dで表現



アセンブリ

部品あるいは他のアセンブリを3Dで配置



図面

一般的な部品あるいはアセンブリの2Dの設計図



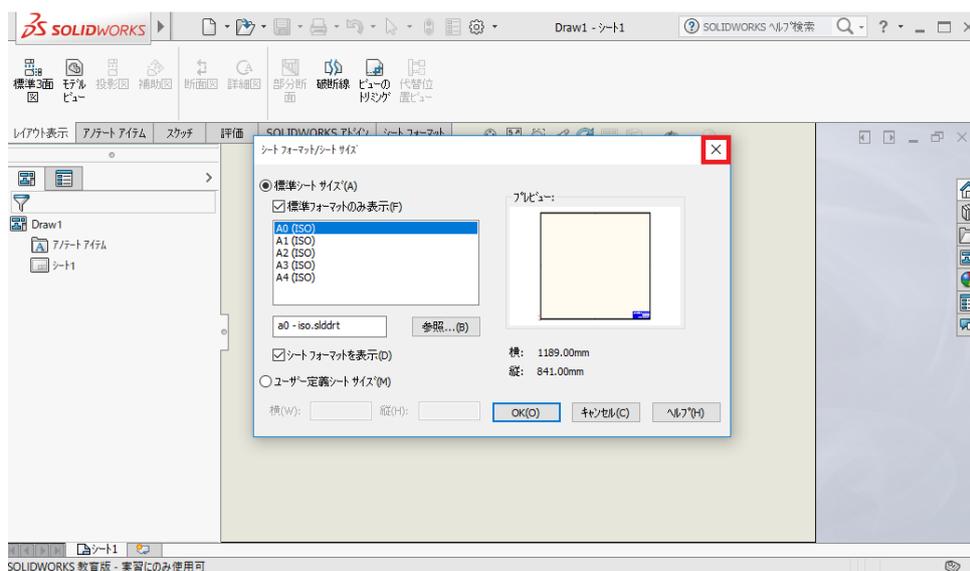
SOLIDWORKS チュートリアル

アドバンス

OK

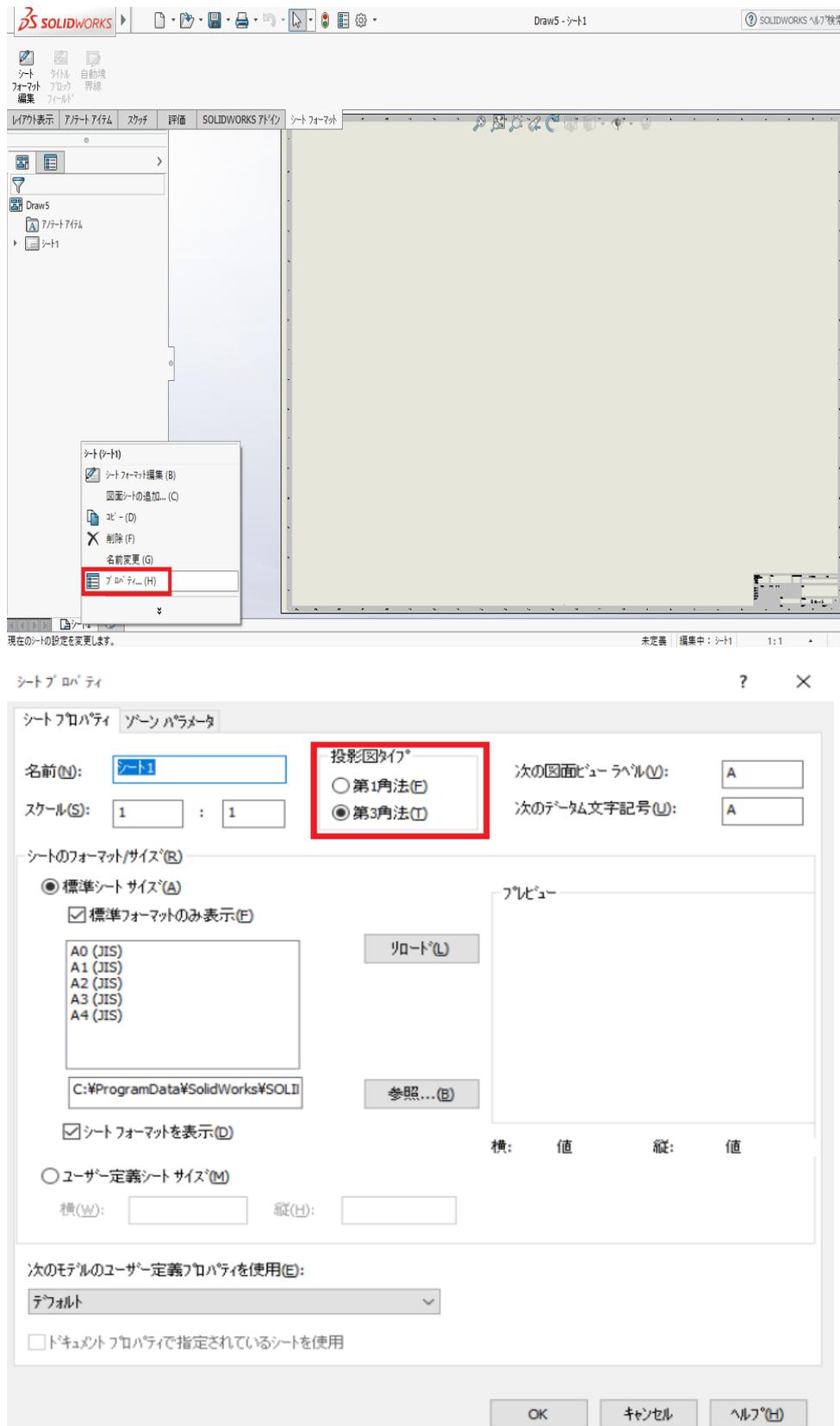
キャンセル

ヘルプ



SOLIDWORKS 教育版 - 練習にのみ使用可

- 31) 左下にあるシートの上で右クリックし、『プロパティ』を選択します。
投影図タイプが第3角法であることを確認します。

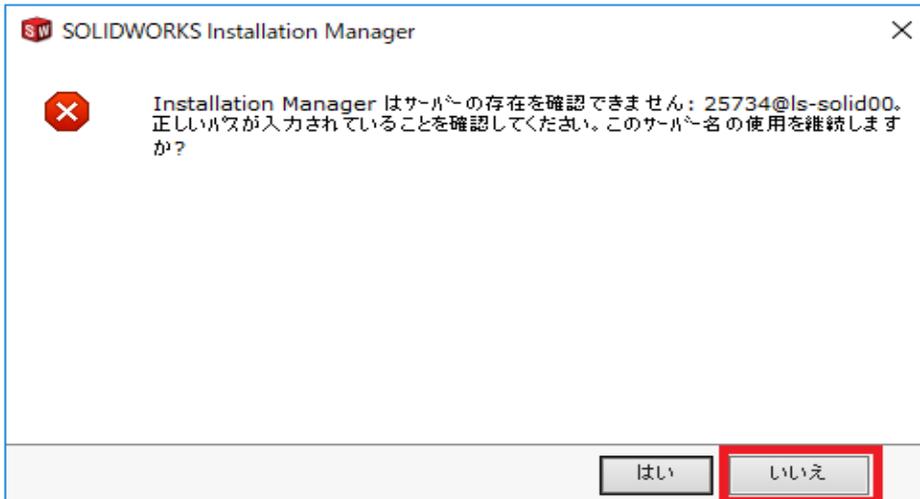


4. その他

4.1. ライセンスサーバの情報の入力時にエラーが表示される場合

手順『3.2.(8)ライセンスサーバ情報を入力』処理にて下図のようなエラーが表示される場合、以下の事が考えられます。本手順を参照して、確認をお願いします。

※下図エラー発生時は、『いいえ』を選択し確認を実施してください。



・考えられる原因

- 1) ライセンスサーバ名が入力が間違っている。

↓

ライセンスサーバ名が正しいか確認して下さい。

ライセンスサーバ情報 : 25734@ls-solid002

(25734@エル・エス・ハイフン・エス・オー・エル・アイ・ディー・ゼロ・ゼロ・二)

- 2) ライセンスサーバ名の名前解決が出来ていない。

↓

KUDOS-ADに参加していないクライアントでは、ライセンスサーバの名前解決

(ホスト名から IP アドレスを調べる)が出来ない場合があります。

『スタート』→『アクセサリ』→『コマンドプロンプト』を起動後、

次の確認用コマンドを実行し確認して下さい。

確認用コマンド : ping ls-solid002

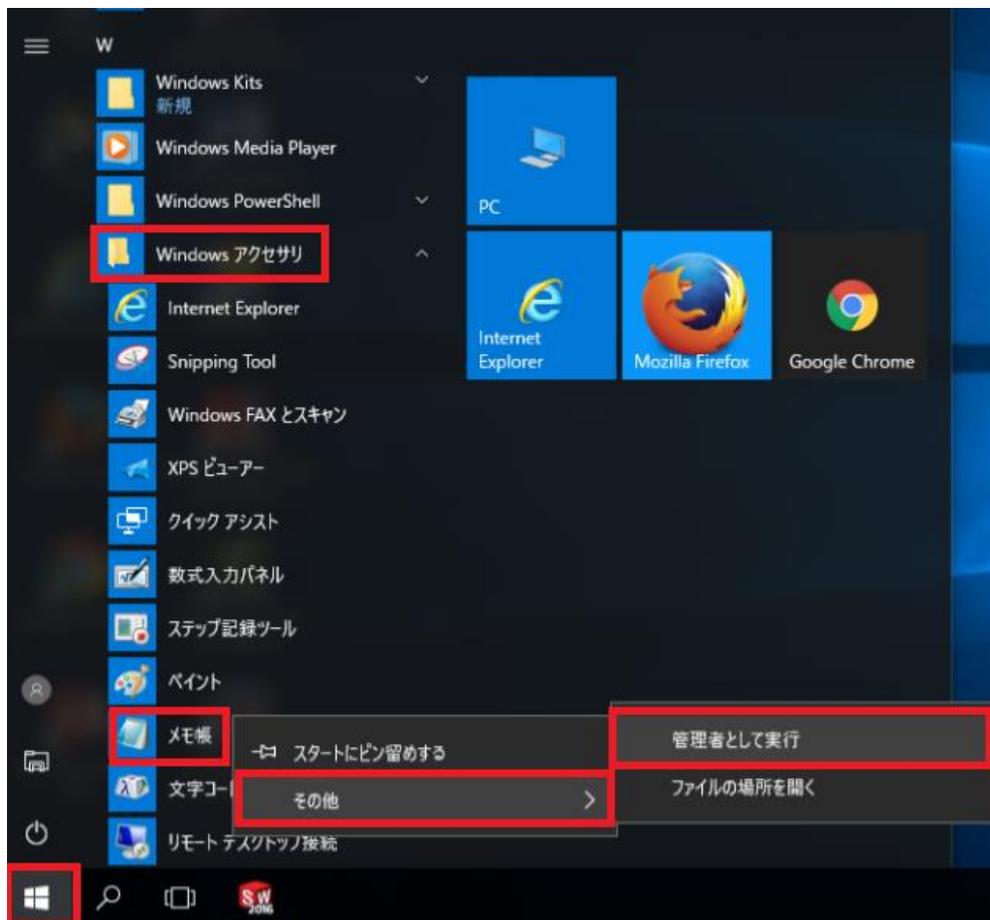
応答がタイムアウトの場合『4.2. HOSTS ファイルへのライセンスサーバ追加方法』の手順を参照して頂き、HOSTS ファイルに次の行を追加してください。

『**163.51.65.21** **ls-solid002**』 (※空欄部分は、Tab となります。)

追加後、再度 **ping ls-solid002** を実施し通信できる事を確認できましたら、インストール作業を続けてください。

4.2. HOSTS ファイルへのライセンスサーバ追加方法(Windows 10 の場合)

- 1) 『スタート』 → 『Windows アクセサリ』 → 『メモ帳』 を選択し
右クリックより 『その他』 → 『管理者として実行』 を選択

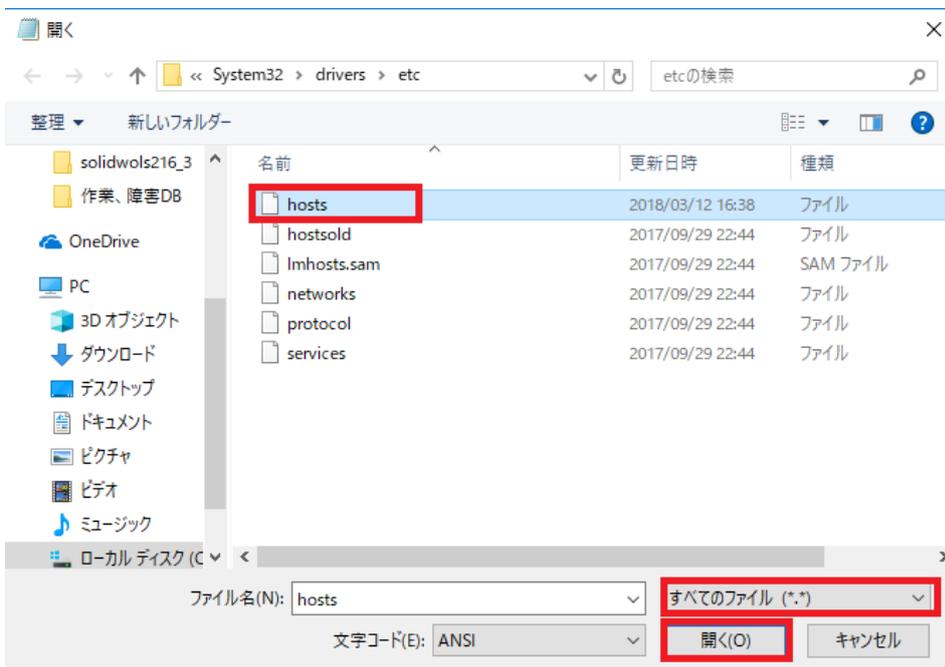
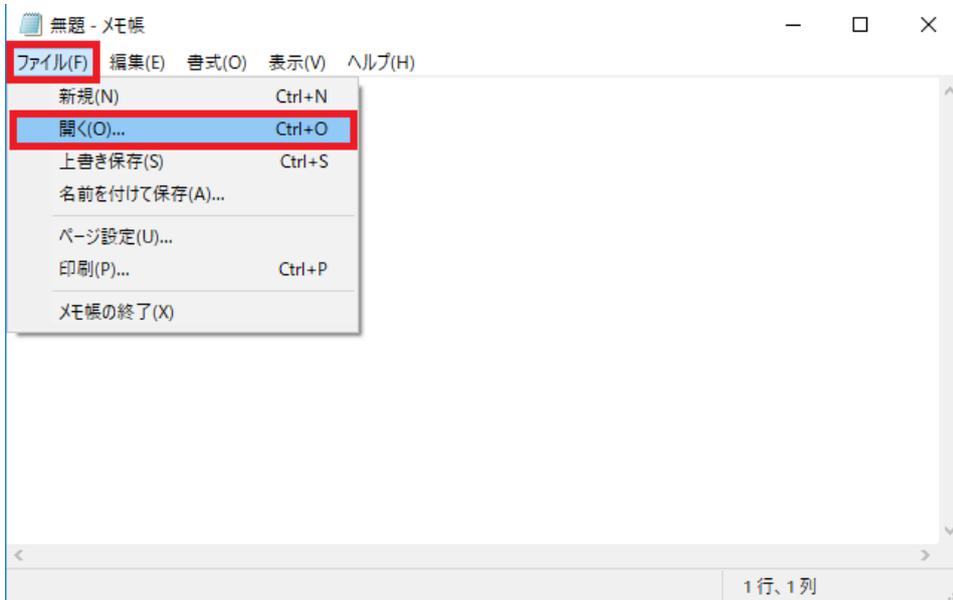


- 2) ユーザーアカウント制御の画面が出た場合は、『はい』 を選択し次へ進みます。

- 3) 起動したメモ帳の『ファイル』→『開く』より、
下記ファイルパスの **hosts** ファイルを選択し『開く』をクリックしてください。

ファイルパス : C:\Windows\System32\drivers\etc

※開くファイルの種類を『テキスト文書(*.txt)』より『すべてのファイル(*.*)』へ
変更しておかないと **hosts** ファイルを選択できないので注意してください。

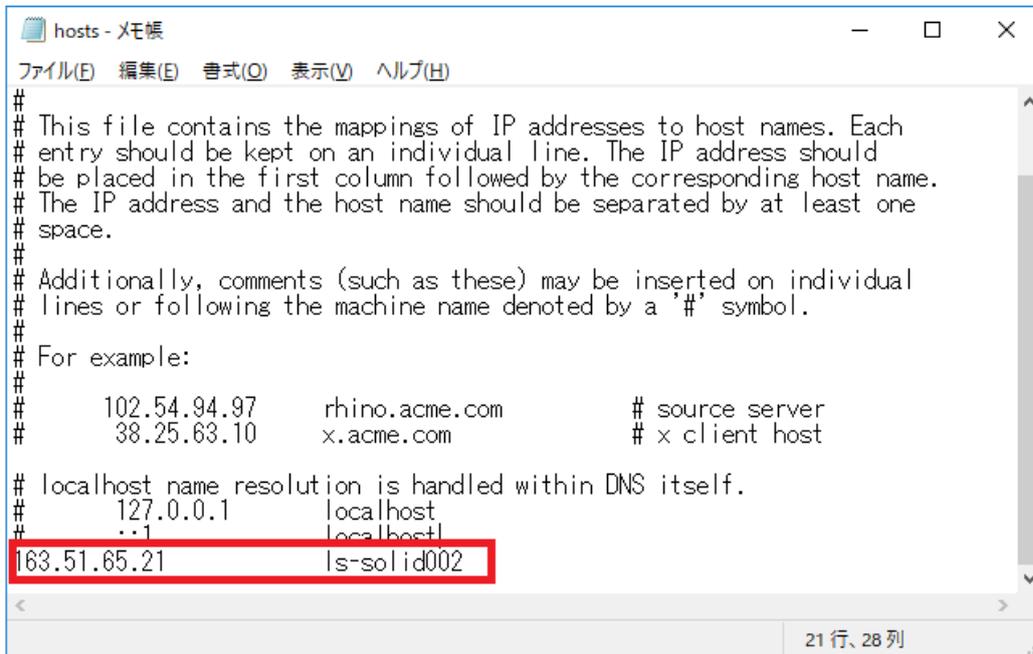


4) 開いた hosts ファイルに次の行を追加し、保存します。

『**163.51.65.21** **ls-solid002**』

※空欄部分は **tab** キーでスペースを空けて下さい。

以上で、追加は完了です。



```
hosts - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
#
# This file contains the mappings of IP addresses to host names. Each
# entry should be kept on an individual line. The IP address should
# be placed in the first column followed by the corresponding host name.
# The IP address and the host name should be separated by at least one
# space.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#     102.54.94.97    rhino.acme.com    # source server
#     38.25.63.10   x.acme.com        # x client host
#
# localhost name resolution is handled within DNS itself.
# 127.0.0.1        localhost
# ::1             localhost
163.51.65.21     ls-solid002
21行、28列
```